

# 大津企業景況調査報告書

(第78回)

平成29年 7月～ 9月期 実績

平成29年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成29年7月～9月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 142 社に F A X 方式による調査

## 2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 5 社	8 社	5 3 . 3 %
卸 売 業	1 2 社	1 1 社	9 1 . 7 %
小 売 業	3 5 社	2 5 社	7 1 . 4 %
サービス業	5 5 社	3 4 社	6 1 . 8 %
建 設 業	2 5 社	1 9 社	7 6 . 0 %
合 計	1 4 2 社	9 7 社	6 8 . 3 %

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成 29 年 7 月～9 月とし、調査時点は平成 29 年 9 月 4 日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

## 景況感は改善傾向が続く

平成 29 年 7 月～9 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況感は、全体の業況判断 DI（前年同期比）が昨年末にマイナス 2 ケタからマイナス 1 ケタに改善して以降改善が続いているが、今四半期は▲2 と 3 年半ぶりのプラスにはならなかった。業種別では、サービス業がインバウンド（訪日外国人）消費の増加等により大幅に改善し、好天に恵まれて建設業も改善したが、小売業は競争激化で悪化した。製造業を除く全業種で人手不足感が強まっており、企業においては人件費負担が増加している。

先行きの業況判断 DI は▲10 とやや悪化を見込んでいる。業種別では、サービス業を除いて悪化するものと見込まれている。また、製造業を除き人手不足が進んでおり、特に建設業とサービス業においては深刻である。雇用の逼迫が先行きへの懸念材料になっている。

### □ 業況判断 DI（前年同期比）は、景況感は改善傾向が続く

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、改善が続いているが、今四半期は▲2 と 3 年半ぶりのプラスにはならなかった。業種別では、サービス業がインバウンド消費の増加等により大幅に改善し、好天に恵まれて建設業も改善したが、小売業は競争激化で悪化した。製造業を除く全業種で人手不足感が強まっている。

### □ 売上 DI（前年同期比）は、ほぼ前年並みまで改善。サービス・卸売・建設業はプラス

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、▲1 でほぼ前年並みとなった。業種別にみると、サービス業がインバウンド消費の好調等から引き続き増加し、卸売業、建設業もプラスに転じたが、製造業、小売業はマイナスであった。

### □ 採算 DI（前年同期比）は、横ばい。サービス業は前年比プラス、他はマイナス

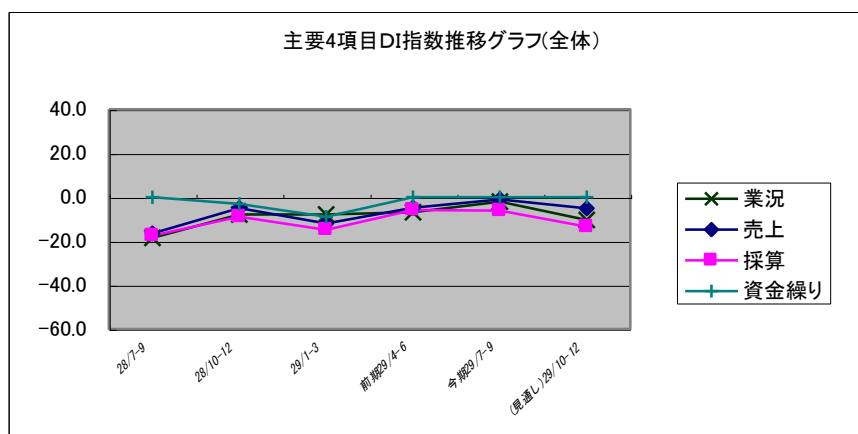
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期から今四半期も▲6 の横ばいであった。業種別にみると、サービス業は+20 と大幅に好転したが他の全ての業種はマイナスであった。売上は改善しても採算は厳しい状況である。

### □ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は、3 ヶ月前と変わらず

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期から今四半期も変わらずであった。長期資金、短期資金の借入易さも前四半期とほぼ変わらずであった。

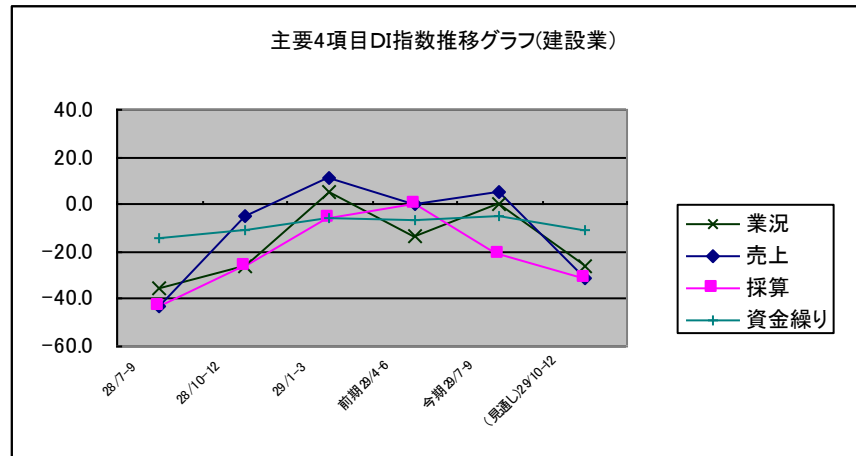
### □ 従業員 DI（前年同期比）は、人員不足感が強まる。賃金・社会保険料の負担も増える

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+19 が今期+22 と人員不足感が強いままである。業種別にみると、業況がやや悪化している製造業では人員の過不足ないが、他のすべての業種で人員不足感が強まっている。人員不足により企業は、賃金の上昇負担だけでなく社会保険料の増加も負担になっている。



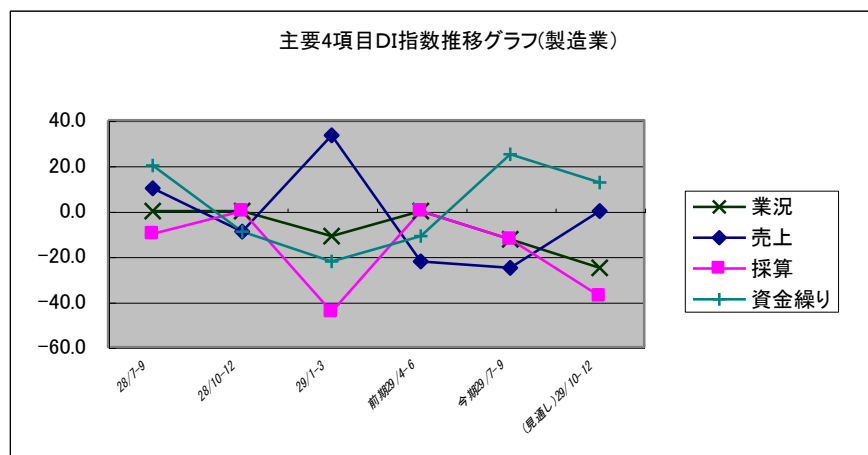
## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期に▲13 と悪化したものの今四半期は±0 と改善した。個別指標をみると好天に恵まれたことや景気の改善で「売上」が前四半期の±0 から今四半期+5 と増加したものの競争により「採算」が±0 から▲21 と悪化したことによるとみられる。「従業員」は±0（過不足なし）から大幅な人手不足となった。



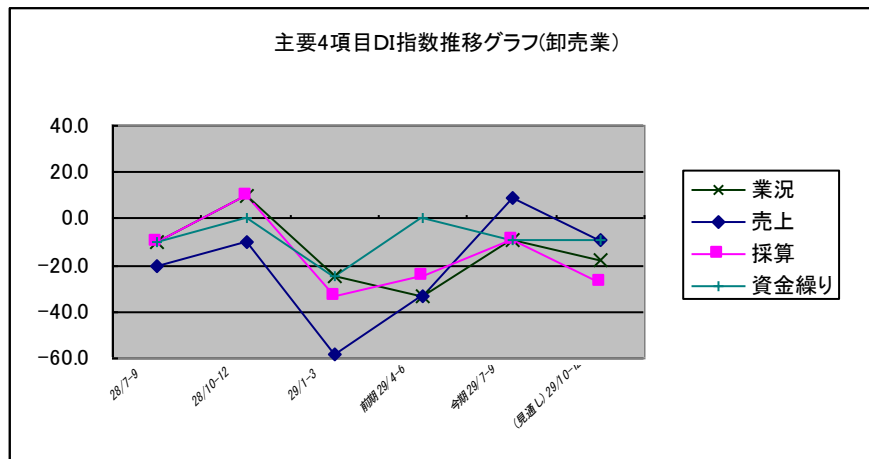
## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期±0（不変）から今四半期は▲13 と悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲22 から今四半期▲25 と減少が続き、「採算」が前四半期の±0（不変）から今四半期▲13 と悪化した。「従業員」は不足感が解消し過不足なしとなった。資金繰りは3カ月前から改善している。



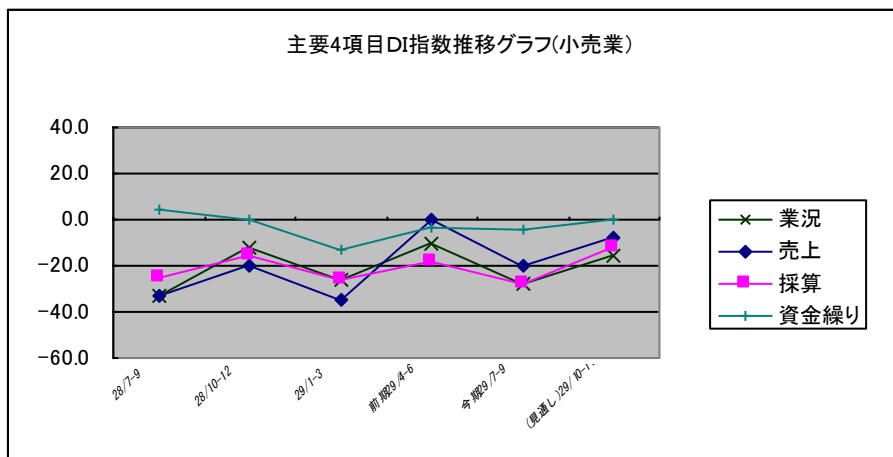
## 卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲33 から今四半期は▲9 と改善した。個別指標をみると「売上」は前年比マイナス（減少）から今四半期はプラス（増加）に転じ、「採算」も改善した。「従業員」は大幅な不足感が続いている。



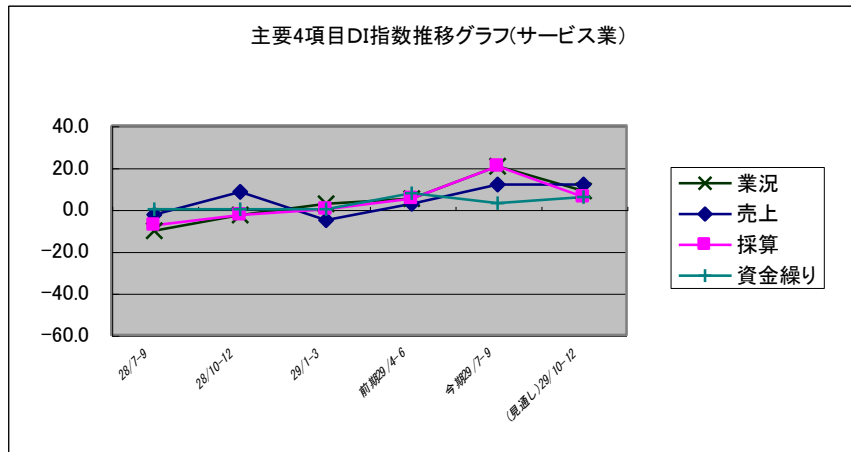
## 小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲11 から今四半期は▲28 と悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の±0（不変）から今四半期は▲20 と減少し、「採算」も▲18 から▲28 へ悪化している。コンビニやドラッグストアが食品販売に力を入れていることやネット通販の増加等、競争激化による売上減少の影響が一部に出ているとみられる。一方、「従業員」は人員不足感が強まっている。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期に+5 から今四半期も+21 と大幅に回復した。個別指標をみると「売上」は前四半期+3 から今四半期+12 と引き続き増加し、「採算」も好転した。「従業員」は大幅に人員不足が続いている。業況の良化は、好天に恵まれたことによるレジャー等の増加やインバウンド消費の増加等によるものとみられる。



来四半期（3 ヶ月後）の「業況」DI は、今四半期の▲2 から▲10 とやや悪化するとみている。

個別指標をみると、「売上」が▲1 から▲5 へやや減少し「採算」も▲6 から▲13 へ悪化すると見込んでいる。「従業員」は+22 から+29 へ一段と人員不足が強まるとみている。業種別「業況」DI では、サービス業が+21 から+9 とプラスのまま推移し、小売業は▲28 から▲16 とマイナス幅が縮小するが、その他の業種はやや悪化を見込んでいる。中小企業では労働力不足が人件費の増加につながる等一層厳しくなっている上、以下の不安要因も先行きへの懸念材料になっているものとみられる。

3 ヶ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は 24%で、3 ヶ月前より 4 ポイント増加した。業種別にみると、製造業が最も高く 50%、小売業が 40%、卸売業が 27%、建設業が 16%、サービス業が 9%である。投資企業の投資内容の割合は、「更新投資」が 46%で最も多く、「合理化・省力化」が 17%である。投資方針は、投資内容から「計画通り」が 65%と高くなっている。

景気の改善傾向の割には、設備投資計画が少ないのは、上記の労働力不足のほか、米国のトランプ政権運営の行方や北朝鮮の動向、世界的な金融緩和政策の見直し時期等から、景気の長期展望が読み難い中で、投資に慎重になっているためと思料される。

田中マネジメント事務所  
MBA・中小企業診断士 田中清行

## (今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- テレビなどで紹介される行列のできる店を見ながら思う「この店 3 年後にあるのかな？」そして自分たちはお客様のニーズをとらえているか？正しい答えなどない時代にやるべき事は昔と変わっていない。難しいからシンプルに考えることが大切だと思います。(小売業)
- 人件費以上に福利厚生・年金保険料の負担が経営を圧迫している。中小企業にとってはすべてに慎重にならざるをえない。(サービス業)
- 夏の天気が良かったので、工事が進んだ。秋にかけても建設業は天気に左右される。(建設業)
- おかげさまで仕事は増加しております。が、工事単価が思う様にいかないのでスムーズに流れにくい。(建設業)
- 経済情勢ではありませんが、小売りの方が忙しくなっております。(卸売業)

## DI 指数一覧表

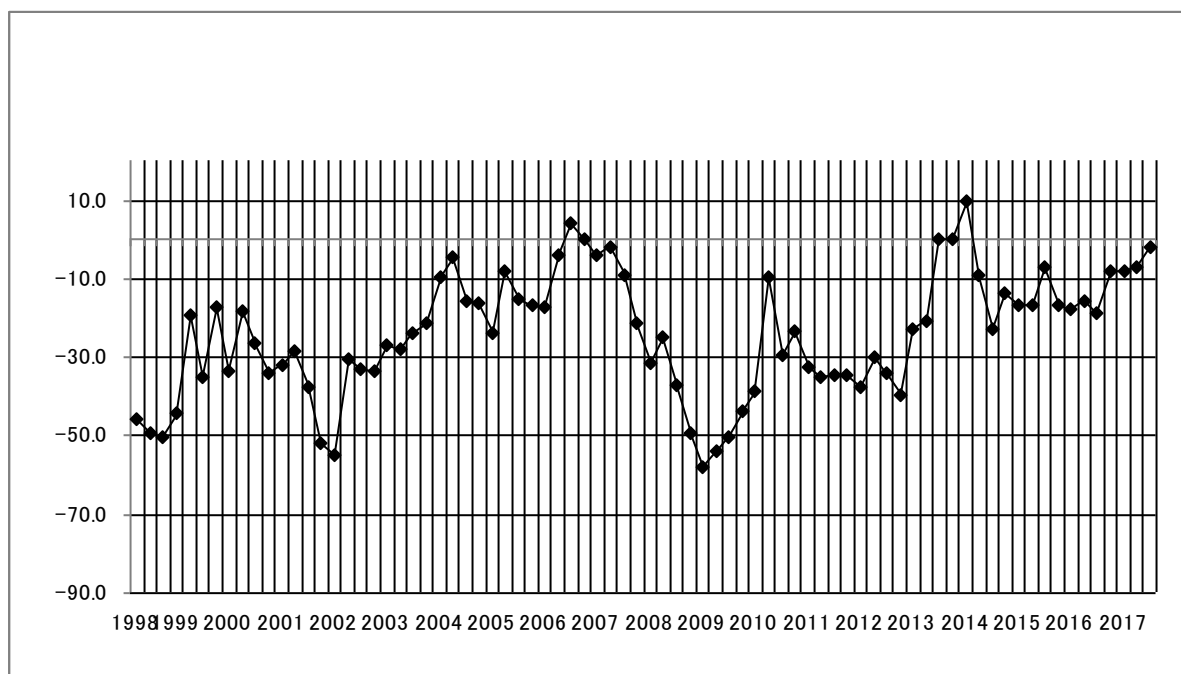
	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲2.1	▲10.3	▲1.0	▲5.2	▲6.2	▲13.4
建 設 業	0.0	▲26.3	5.3	▲31.6	▲21.1	▲31.6
製 造 業	▲12.5	▲25.0	▲25.0	0.0	▲12.5	▲37.5
卸 売 業	▲9.1	▲18.2	9.1	▲9.1	▲9.1	▲27.3
小 売 業	▲28.0	▲16.0	▲20.0	▲8.0	▲28.0	▲12.0
サービス業	20.6	8.8	11.8	11.8	20.6	5.9
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	17.5	23.7	▲8.2	▲3.1	21.6	28.9
建 設 業	21.1	5.3	21.1	0.0	21.1	31.6
製 造 業	12.5	25.0	0.0	▲12.5	0.0	0.0
卸 売 業	9.1	27.3	▲18.2	▲9.1	27.3	27.3
小 売 業	▲8.0	8.0	▲16.0	▲12.0	24.0	24.0
サービス業	38.2	44.1	▲17.6	5.9	23.5	38.2
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	0.0	0.0	3.1	2.1	1.0	3.1
建設業	▲5.3	▲10.5	0.0	0.0	5.3	10.5
製造業	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	▲9.1	▲9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲4.0	0.0	8.0	0.0	0.0	▲4.0
サービス業	2.9	5.9	2.9	5.9	0.0	5.9
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

## 大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>